

【学校長コラム】 時を守り、場を清め、礼を正す

だいが小の休み時間でよく目にする一場面。

休み時間の終わりが近づくと、誰かが何かに気づき、校舎に向けて駆け出します。それに気づき、次々に、どんとどんと、校舎へ向けて走る児童が増え、波になります。手をつないだり、声をかけあったり、後をふりかえったり…。

だいが小学校はノーチャイムの学校です。

児童は自然と時計を見ながら生活する習慣を身に付けていきます。授業開始の時間を守ることはもちろん大切ですが、私は、毎日休み時間の度に校庭で見かけるこの後姿が大好きです。

「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉があります。この言葉は、哲学者であり教育者でもある森信三先生と言う方の教えの一つです。

「時を守り」は、時間を守るという意味です。そして、それ以上に、その先で、一緒に活動する自分を待つ、友達を思いやることにつながります。「人を尊重すること」です。

「場を清め」は、主に清掃という作業のことです。これも、一緒にその環境で過ごす相手のため、互いに気持ちよく過ごすための行為です。「人のために尽くす」という意味なのです。

「礼を正す」は、挨拶・返事をするということです。挨拶をしてくれる人、気持ちのよい返事をしてくれる人へは、好感や安心感、信頼感を抱きます。そして、自分の世界が広がり、「人とよりよい人間関係をつくる」ことにつながります。

「時を守り」→時刻・時間、期限を守る→「人を尊重すること」

「場を清め」→清掃→「人のために尽くすこと」

「礼を正す」→挨拶・返事→「人とよりよい関係をつくること」

毎日の学校生活の中には、いろいろな出来事や様々な場面があります。その一つ一つを一生懸命に守り、やり抜こうと努力する子どもたちに、その行為のすばらしさ、それを続けることが自分を育て、よりよい未来につながっていくことを伝えていきたいと思います。



